

平成26年度博物館施設評価集計シート
(年度末)

施設名 さきたま史跡の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

1. 全館共通項目

(1) 数値目標による評価

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	338	人	A	338人×100% 開館日数:314日 総入館者数:113,717人
				362	人		
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	338	人	A	338人×100% 開館日数:314日 総観覧者数:113,717人
				362	人		
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	555	件	B	572件×97%
				471	件		
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	734,121	件	C	354,648件×207% 更新150回
				543,761	件		
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	244	件	B	126件×194% 掲載件数67件
				226	件		
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	10,540,000	円	A	当該年度予算計上額 7,503,820+4,756,590(円)
				12,260,410	円		

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠
				達成値			特記事項
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる
				11	件		
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる
				16	件		
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる
				10	件		
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				7	件		
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる
				13	件		
9	施設の活用	施設の利用・活用	施設の利用・活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		

2. 館別独自項目
 (1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入館者数	20,000	人	A	昨年度実績	
				36,670	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	10	校	A	昨年度実績	
				17	校			
3	利用状況	学校利用	学校団体の博物館利用校数	200	校	A	昨年度実績	
				230	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	600	点	B	資料点検年次計画による	
				504	点		国宝展示室(126) + 収蔵庫(378)	
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	A	昨年度実績	
				89	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	A	昨年度実績	
				94	%			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成度			特記事項	
1	史跡整備	史跡整備事業の実施と活用	国史跡整備の実施状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
2	古墳公園空間の提供	公園整備と利・活用	古墳公園としての実施状況	5	件	A	別紙チェックリストによる	
				5	件			
3	考古資料を活用した体験プログラムの提供	考古体験事業の実施	機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			
4	魅力ある展示事業	企画展示事業の実施	各時代の考古学をテーマとした企画展の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	①丸墓山・鉄砲山古墳の発掘調査と、二子山・稲荷山古墳の史跡整備 ②埼玉古墳群総括報告書刊行に向けた準備 ③収蔵資料等の公開・活用 ④資料展「はにわー沈黙の語り部たち」(熊谷図書館)との連携 ⑤出前授業「なるほど古墳時代」と、自由研究相談窓口「調べてわかる埼玉古墳群」実施 ⑥体験メニューとミュージアムグッズの充実 ⑦利用促進のための広報活動 ⑧Googleアートプロジェクトへの参加
事業の成果	①鉄砲山古墳発掘調査の現地説明会開催(1月25日, 112人) ②総括報告書刊行のための専門部会委員の選任作業 ③国宝稲荷山古墳出土品の公開、企画展「ハニワの世界」開催(9月20日～11月16日, 13,578人) ④資料展「はにわー沈黙の語り部たち」関連事業「はにわの形と思想」講座開催(11月1日) ⑤出前授業17校33学級(994人)、自由研究7月29～31日(33人) ⑥ガラス玉づくり2月3～22日(105人)、特別支援学校等と連携して西川材「木製パズル」の制作・販売 ⑦「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布(県内小学6年対象, 7月) ⑧高解像度静止画31点, 館内のストリートビュー, 古墳群のストリートビュー, YouTube(10月27日公開)

基礎データ

職員数 (学芸員数)	24人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	87,958,000円	職員一人あたりの県民人口	31.4万人
収蔵資料総点数	2,153箱	事業経費 (上記の内数)	15,758,000円	利用者一人あたりのコスト (平成25年度)	728円
平成25年度 収集資料点数	60箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	10,540,000円 (7,515,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成25年度)	1.54%

(注)平成26年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,225,484人である

平成26年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	3	2	1
	チェックリストによる評価	9		
各館独自	数値目標による評価	5	1	
	チェックリストによる評価	4		

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに稲荷山古墳埋葬施設のリニューアルに着手するなど、着実に史跡整備事業を進めている。 ・中期事業計画(26～30年度)を定め、各年度ごとのテーマに沿って、展覧会や講座を連動して開催するようにした。 ・昨年度に比べ入館者等が増加している。特に7～9月は、入館者全体22.5%、小学生個人55.4%、まが玉販売個数が75%増加した。 ・資料活用において、資料貸出1,418点・特別利用7,057点は他館と比べても突出して多く特記する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館ユニバーサルデザイン化事業の取り組み。 ・評価結果を改善に反映する仕組みづくり。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興基金などを導入した新規事業の立ち上げ。 ・職員全体で博物館評価の意義を理解し、共有していく。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見

・ 利用状況の目標達成は、教育普及事業の企画力や運営、ボランティアとの連携、適切な接客によるところが大きい。職員の意識・献身を高く評価したい。

・ 特に、考古資料を活用した体験プログラムは、ガラス玉づくりや貝輪の制作など、新しい試みに果敢に取り組んでおり、この姿勢を今後も続けてほしい。

・ 史跡整備事業も緩やかではあるが、着実に成果を上げている。継続は力であり、明確な中長期的目標を掲げて、着実に進めてほしい。

・ 企画展示評価はAとあるが、入館者数だけでなく、顧客の満足度のデータ分析を望む。7回の実施は職員の努力を評価したいが、そのうちの1回は企画・内容・広報において特別展級のものを望みたい。

・ 情報提供、インターネットの活用、広聴・広報は軒並みCである。職員の顔が見え、声が聞こえるコンテンツの充実が望まれる。携帯端末やSNSによる情報発信も検討してよいのでは。

・ 調査研究では、館としての柱を明確にすべきである。例えば、「古墳詳細分布調査」の長期的継続である。予算はなくとも、職員の足、ボランティアの協力、市町村との連携による事業実施が考えられる。それをもとに「古墳探訪」のようなコンテンツを制作・更新し、デジタル・アーカイブとして公開することも考えてよいのではないか。

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見